

現代文 確認問題 自由な主体に必要な「尋ねあい」

【第1段】人類がめざす社会と倫理

【問】P26、上4 「二つの焦点をもつ」とあるが、「人権」「自治」それぞれにおける「自由」とはどのようなものか。

人権	「自分がよいと思う生き方」を追求できる思考と行動の自由。 「自分の意志で職業や結婚相手を選べる」P26上5 「他人から那様されることはなく自分の考えを表現できる」P26上5 「自分がよいと思う生き方」(自分なりの幸福)を追求できる」P26上6
自治	自分たちで社会をつくる自由。共同的な自治の自由。 「互いの意見を表明しあいながら、『どの人にとっても利益になること』をルールとして取り決め、それに従つて社会を運営していく」P26上9

【第2段】現代日本の現状

【脚問】P27、上6 「生き方の自信」をもつためには、どのようなことが必要とされているか。

「何」を追求すればよいかについて、確信が持てる上じ。
「何」を追求すればよいかについて、確信を持たない人は多い」P27上3
「生き方の自信がない」P27上6

【問】P27、上10 「共同的な自由」の喜びとは、どのような喜びか。

例)自治の活動に参加するとき、自分の意見を自由に表明できる喜び。
【問】なぜ「喜び」があるのか。
【答】参加している自分たちの意見が活動に反映されるから。 「意見をかわしながら」P27上8 「自治の活動」P27上9

【問】P27、上11 「集団の空気を読んで対処しないといけない」とあるが、「集団の空気を読んで対処する」とは、上記ではどのようにする上じか。

自分の意見を積極的には表明せず、その場にいる人たちの全般的な意見と思われるものに従うこと。 人々の気持ちや場の雰囲気を把握し、自分もそれに従うこと。
「集団の中で自分の想いを出すのは危険だ」P27上11 「自分からは何も言わず」P27上11 「集団の空気を読んで対処しないといけない」P27上11
【問】もしも「自分がよいと思う生き方」を強く主張したらどうなるか。 【答】費舌両論。成功(認められる) 失敗(認められない)

H	R	号	名
番	氏		

【問】P27、上14 「自由な主体」になつてゐるとは言い難い」のはなぜか。「人権」「自治」という二つの視点から、本文に即してまとめなさい。

人権	自分の生き方に確信がなく、周囲の目を気にしてしまうから。 価値あると信じることに力を尽くして実現しようとする生き方ができないから。 「何」を追求すればよいかについて、確信を持たない人は多い」P27上3 「生き方の自信がないと、それだけ周囲の目が気になるてしまう」P27上6
自治	「共同的な自由」の喜びと無縁の人や、集団の空気を読んで対処する人が多いから。 「共同的な自由」の喜びと無縁に生きている人も多く、集団の中で自分の意見を言わず、空気を読んで対処する人も多いから。 「共同的な自由」の喜びと無縁に生きている人も多い」P27上10 「集団の空気を読んで対処しないといけない」P27上11

【第3段】自由な主体に必要な条件

【脚問】P28、上10 「このような語りあい」とは、どのようなものか。

どんな意見を言つても攻撃されることなく、互いの想いを丁寧に受けとめもうとする雰囲気の中で、何かの善し悪しについて意見を交換し、「よりよい」議論に進んでいくもの。
・丁寧な尋ねあい → 「どんな意見を言つても攻撃されることはなく」P28上4 「互いの想いをちゃんと受け取ろうとする雰囲気の中で」P28上4
・意見の交換 → 「何かのよし悪し(面倒)について意見を交換できた」P28上5 「互いの想いをてこねに受けとめたら」P28上9
・よりよい方向への議論 → 「こう考えるほうが『よりよい』のでは。という議論に進む」P28上9
・大切なことを説明できる確信が育つ

【脚問】P29、上1 「感觸」という言葉がこのあと繰り返されるが、それを否定するものとしてどのようなものが挙げられているか。

頭(こな)しに否定すること。理論で武装してコヨニカーンヨンをじる上じ。
「意見を頭(こな)しに否定したりせずに」P28上15
「理論で武装しないでコヨニカーンヨンをじる」P29上10

【二百字要約】

【第4段】自由な主体から自治の力へ

【脚問】P30、L7 「『尋ねあい』の作法が必須なのだ」とあるが、「尋ねあい」の作法とはどのようなものか。簡潔に説明しなさい。

相手の意見を頭ごなしに否定したりせずに、まずは相手の言い分を尋ね、確かめること。
意見を言う人にそう考える「感触」を尋ね、丁寧に聞き取ること。

「意見を頭ごなしに否定したりせずに」 P28 L15 「相手の感触を尋ねて確かめていく」 P29 L2

「意見を言う人に対して、相手がそう考えるさじの『感触』を尋ねてみる」 P28 L15

【問】P30、L6 「多様な感度と生き方とをもつていて」とはどのようなことか。

【答】人それぞれ考え方や人生に対する姿勢が異なり、個人差が大きいといふこと。

「メンバー個々の事情や想い」 P30 L2

「模倣したりも、はるかに□」 P30 L6

【問】P30、L8 「自由で風通しのよい社会」を作り上げるために、どのようなことが必要だと筆者は考えているか。

尋ねあいの作法を社会のさまざまな場所で育てていけり。

「『尋ねあい』の作法が必須なのだ」 P30 L7

「こうした作法を、教育現場や、ヨコヨコティーに関わる活動や、企業の内部でも育てていけり」 P30 L7

【問】P30、L8 「自由で風通しのよい社会」とは、どのような社会か。

◎風通しのよい…主に会社内において、社員の上下関係がフラットで意見を言い合える環境であつたり
意思疎通や情報共有がうまくいくつてひるさまなどを意味する語。

【問】「尋ねあい」に際してどのようなことを心がけるべきか。本文の主張をふまえて、自分の意見を五〇字以内でまとめなさい。

人の意見にも自分の意見と同じように価値があることを意識し、**相手を一方的に否定しない**
ようにするべきだ。 「意見を頭ごなしに否定したりせずに」 P28 L15

優劣や勝ち負けを決めるためではなく、**違いを認めあうための尋ねあい**であることを意識すること
が必要だ。 「互いの違いに気つくことと共に」 P29 L15

自分の意思をしつかり持ちつつ、**他者を尊重し、他者から共感が得られるように努力をして**
いくことが大切だ。

「自分の言葉が確かに受けとめられて、そして相手から反応がちゃんと返ってくる」 P29 L12

人類がめざしてきた社会と倫理は、「自由」を中心とし「人権」と「自治」の焦点をもつ。現代日本社会では、どちらも認められつつあるが、人々が「自由な主体」になつてゐることは言い難い。そこへと成長する条件は、互いの想いを丁寧に尋ねあい確かめあうことである。それによつてよい方向へ議論が進み、価値の確信を育てていくことができる。多様な感度と生き方をもつてゐる現代の私たちにこそ、「尋ねあい」の作法が必須だ。

【百字要約】

現代日本社会ではまだ、人が「自由な主体」だとは言い難い。互いの想いを丁寧に尋ねあい確かめあうことで価値の確信を育てていける。多様な感度と生き方を持つてゐる現代の私たちにこそ、「尋ねあい」の作法が必須だ。

現代文 確認問題 水の東西

【第1段】「鹿おどし」のリズム（東洋の水）なんとなくだるいこと

【脚問】P 17、L 2 どのような点に「人生のけだるさのよくなもの」を感じるのか。

単調なリズムで、緊張と弛緩が無限に繰り返される点。

【問】P 60、L 1 「鹿おどし」を見て「なんとなく人生のけだるさのよくなものを感じる」はどうしてか。

【答】緊張と単純なリズムと何事も起こらない徒勞が繰り返されるから。

変化のない日常生活。人生の単調さ。

【問】「人生のけだるさ」とは、どのようなものか。

【答】努力しても成果を感じられない。同じことの繰り返しに意味を感じられない。

◎けだるさ…なんとなくだるいこと。け…なんとなく。どこなく。

【問】P 17、L 5 「緊張」とは、具体的にどのような状態をいうのか。

「鹿おどし」の水受けがいつぱいになり、今にも跳ね上がるのではないかという、静から動へ急激に変わろうとする状態。

「今か今か」というように、その瞬間が来るのを待っている状態。

何かが起るまでの日常的な積み重ね。定期考査・試合・文化祭・体育大会・修学旅行》

◎緊張…心や体が緩みなく引き締まる感じ。

【問】人は、どのような時に緊張するのか。

【答】多くの人の前でしゃべる時。好きな異性に電話する時。偉い人（気むすかしい人）と接する時。

【問】P 17、L 8 「こおん」を「コーン」と置き換えると、感じはどう変わるか。

「くぐもつた優しい音」から「澄んだ硬い響きの音」に変わる。

【問】平仮名と片仮名との印象はどのように変わるか。

【答】柔らかい感じと堅い感じ。カタカナ…無機質。金属的。

優しい音とは…耳触りがよい。心が和む音。

優しい味とは…味付けが濃くない。ヘルシー。体によい。塩分控えめ。パンチが効いてない。

【問】P 18、L 1 「何事も起こらない徒勞」とは、どのようなことをいうのか。

永遠に同じことを繰り返してはまた元に戻る、無駄で意味のないようなこと。

鹿おどし…日本東の水。・単純な、緩やかなりズムの無限の繰り返し

・何事も起こらない徒勞がまた一から始められる

↓

・水の流れをせき止め、時を刻むことによって、かえつて流れやまないものの存在を強調する

◎徒勞…無駄なことに力を費やすこと。無駄な骨折り。^{いまだら}…無駄。

【第2段】歐米の水の芸術（西洋の水）

【脚問】P 18、L 16 「水の造型」とは、噴水のどのような様子を表したものか。

噴き上げる水が揺れ動くバロック彫刻のように、音を立てて空間に静止して見える様子。

華やかな噴水

噴水…歐米（西）の水 噴き上げる華やかな水の芸術

「揺れ動くバロック彫刻ながら」P 20 L 1 (ながら…そつくり。あたかも)

「音を立てて空間に静止」P 20 L 2

【第3段】流れる水を好んだ日本人

【問】P 20、L 11 「日本人が、噴水を作らなかつた理由」は何か。

外的的な事情

①日本の空気は温ついて、人々が噴き上げる水を求めなかつたから。

②噴水を作るための水道の技術が、西洋のように発達していなかつたから。

「西洋の空気は乾いていて、人々が噴き上げる水を求めた」P 20 L 9

「ローマ以来の水道の技術が、噴水を発達させるのに有利であつた」P 20 L 9

内面的な事情

①日本人は自然に流れる水の姿に美しさを感じるから。

②日本人は、形のないものを恐れない心を持っているから。

「日本人にとって水は自然に流れる姿が美しいのであり、圧縮したりねじ曲げたり、粘土のように造形する対象ではなかつた」P 20 L 12

「積極的に、形なきものを恐れない心の現れ」P 21 L 1

【問】P 20、L 16 「思想以前の感性」とは、ここでは具体的に何を指すか。

積極的に、形なきものを恐れない心。形なきものを恐れない心の現れ。

◎思想…思考作用の結果生じた意識内容。

◎感性…人間が本来もつている、物事から受けける刺激を感覚的に受け止める力のこと。

「積極的に、形なきものを恐れない心の現れ」P 21 L 1

【脚問】P.21、上1 「それ」とは、何を指すか。

「行雲流水」という言葉に見られるように、水は自然に流れるままがよいと考える態度。

形がないことについて、おそらく日本人は西洋人と違った独特の好みを持っていた。(40字)

〔20字以内で答える〕

形のないものに対する日本人独特の好み (18字)

【第4段】日本人の水を鑑賞する行為の極致を表す仕掛け「鹿おどし」

【脚問】P.21、上6 「『鹿おどし』は、日本人が水を鑑賞する行為の極致を表す仕掛けだと言える
かもしれない」のは、なぜか。

水を実感するために、水を見る必要さえないから。

日本人にとって、水の美しさは自然に流れる中にある。また、「鹿おどし」は音と音との間に流れるものを間接的に味わわせる。このように「鹿おどし」は、形なきものを恐れない日本人の感性が集約された仕掛けであるから。

【問】P.21、上4 「我々は水を実感するのに、もはや水を見る必要さえないと言える」のはなぜか。

【答】日本人固有の感性により、断続する音の響きを聞くことで、間際に流れるものを感じ取ることができるから。

「ただ断続する音の響きを聞いて、その間に流れるものを間接に心で味わえばよい」 P.21 上5

- 3 -

鹿おどし→日本人が水を鑑賞する行為の極致を表す仕掛け

- ・日本人は、形なき水に美を感じる
- ・水を見る必要がない
- ・断続する音(鹿おどしの音)を聞いて、その間に流れるもの(水)
実際には水の音は聞こえないを心で味わうことができる
- ・水を鑑賞する行為の極致

【二百字要約】

歐米では華やかな空間芸術、水の造型ともいるべき噴水が好まれるが、それに対して、日本人は水は自然に流れる姿が美しいと考え、形がないことを好む独特の感性をもつており、それは積極的に形なきものを恐れない心の表れである。水の流れを実感するのに、水を見ることが必要ないといえる。ただ断続する音の響きを聞いて、その間に流れるものを心で味わう「鹿おどし」は、

日本人が水を鑑賞する行為の極致を表す仕掛けである。

【百字要約】

歐米人に比較し、日本人は形なきものを恐れない独特の心性がある。水を実感するにもはや水を見る必要さえなく、流れるものを間接に心で味わう「鹿おどし」は、日本人が水を鑑賞する行為の極致を表す仕掛けである。